

(様式3)

水源環境保全・再生かながわ県民会議 第3回事業モニター報告書

事業名 相模川水系県外上流域対策の推進

報告責任者 森本 正信

実施年月日 平成26年11月18日(火)

実施場所 山梨県上野原市桐原
山梨県桂川清流センター(山梨県大月市梁川町塩瀬800)

評価メンバー 北村 多津一、倉橋 満知子、坂井 マスミ、佐藤 恭平、
滝澤 洋子、中門 吉松、西 寿子、前田 裕司、増田 清美、
森本 正信

説明者 山梨県森林環境総務課 職員
森林整備課 職員
都市計画課下水道室 職員
桂川清流センター 職員

事業の概要

・ねらい

第2期から開始した神奈川県と山梨県の共同事業により、桂川流域の効果的な保全対策を実施する。

【森林整備】

桂川流域の荒廃した民有林の間伐を促し、森林機能の再生を図る。伐採後に植栽がなされていない山へ植林し、公益的機能の増進を図る。

・内容

【森林整備】

荒廃森林再生事業における間伐 5年間の計画量 1,280 ha

広葉樹の森づくり推進事業による植樹 5年間の計画量 10 ha

・実績(平成25年度)

【森林整備】

荒廃森林再生事業における間伐 : 212 ha

広葉樹の森づくり推進事業による植樹 : 2.7 ha

| 評価結果 共通項目 | |
|---|--|
| ①ねらいは明確か | 5点：6名 4点：3名 3点：2名 2点：1名 重複あり |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 相模湖などのダム集水域の大半は山梨県内に広がっており、相模川上流域は相模川の水量のうちの8割を占めることから、山梨県の荒廃森林の整備は本県の水源環境の保全・再生にも直結するものである。 ○ 委員6名が5点を、3名が4点の評価点であり、山梨県と本県の共同事業のねらいを高く評価している。 | |
| ②実施方法は適切か | 5点：1名 4点：8名 3点：3名 重複あり |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 人工林の約6割が荒廃しているとの調査結果を踏まえ、間伐率30%一回間伐での20年間の作業期間を策定・実施中であり、切り捨て間伐による経費削減もはかっている。 ○ 今後の間伐材の搬出で必要となる森林作業道も合わせて整備しており評価出来る。 | |
| ③効果は上がったか | 5点：1名 4点：4名 3点：5名 2点：1名 重複あり |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 一度の間伐によって林内の光環境が改善され、低灌木が林床に育ってきている。従って、この森林は水源としての役割を十分果たしつつあると思われる。 ○ 車両が入れる森林作業道が付くことにより、地域の森林の活性化に大きく寄与することが期待出来る。 | |
| ④税金は有効に使われたか | 5点：3名 4点：3名 3点：2名 2点：1名 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 限られた予算枠内で、間伐材の集積をやらないなど経費を抑えた施工を実施しているなど、工夫されている。 ○ 両県の共同事業協定書締結から2年経過したところであり、山梨県側の森林施策を見守り・尊重していきたい。 | |
| 個別項目 | 5点：2名 4点：5名 3点：4名 重複あり |
| (上流部対策) | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 神奈川県と山梨県で共同事業を実施していることを、両県民により周知していくことが重要。 ○ 相模川上流部が神奈川県民の飲み水を支えてくれていることを再認識することが大事で、ノウハウの交換や相互交流の場をもっと増やすことが必要となりそう。 | |

| | |
|---|---|
| <p>総合評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 山梨県の森林施業は、人工林の荒廃森林再生事業が第一義となっていること、神奈川県の水源地環境を守るうえでも、山梨県側の協力が欠かせないこと、などを両県民により啓発・高揚していくことが大事。 ○ 共同事業については両県の信頼関係を大切に、それぞれの良い点を採り入れる関係に発展する好機とも言え、今後とも取組を加速させて成果を出していく必要があると同時にモニタリング調査も重要。 ○ 森林整備に関し、作業道の作り方や水の逃がし方、間伐された木の置き方など、神奈川県との違いが見られたが、下層植生の回復が見られ、水源地環境保全・再生の効果も現れ始めている。 ○ 森林作業道に関して山梨県では作設指針を定めていて、幅2・5m規格のしっかりした作業道を開設しており、今後の搬出の循環に期待が持てた。 | <p>5点：2名 4点：2名 3点：5名 2点：1名 重複あり</p> |
|---|---|

1 共通項目 ねらいは明確か

| 委員 | 評価・疑問提起・改善示唆 | 評価点 |
|----|--|-----|
| 北村 | 森林整備の現場は、源流部であり水源環境保全のために共同事業を実施する場所として適切であるかについてはやや疑問が残ります。 | 3 |
| 倉橋 | 【森林整備】 相模川の水量の内、8割が山梨の森林から供給されることを考えると、荒廃林の私有地の支援は初期費用として必要であるとは思いますが、人口が少ない上流部の将来を見据えて、森が循環できる仕組みにねらいを定めるべきと考えます。 | 2 |
| | 【生活排水対策】 アオコの原因であるリンの除去方法としてねらいは明確である。 | 3 |
| 坂井 | ① 間伐されていない森林に追加助成して整備を進め、森林の活性化の起爆剤としたい上流部山梨県への助成は有意義。 ② アオコ対策として、上流での燐除去は有意義。 | 5 |
| 佐藤 | 【森林整備にかかわる共同事業】 山梨県内相模川上流域にある、荒廃森林6,600haのうち1,280ha分を5年間で山梨県と共同で整備（主に間伐）し、相模川上流域の水源林の環境を改善する。共同事業による年間整備面積は256ha/年。ねらいは明確です。 | 5 |
| | 【排水からのリン削減のためのPAC処理設備】 相模川上流に放流される生活排水中のリン分を削減するための設備であり、目的は明確です。 PAC設備がない場合1.2~1.6mg/lのリン濃度をPAC設備を設けることにより0.6mg/lへ低減することを目的としている。 | 5 |
| 滝澤 | 明確です。 | 4 |
| 中門 | 相模川上流域の森林整備、相模湖アオコ対策として流入するリン削減としての排水処理モデル事業（PAC処理）も共同事業としての狙いは明確である。 | 5 |
| 西 | 県外の上流の担当者の方々と直接話ができ、ねらいは明確で評価できると思いました。 | 4 |
| 前田 | 水源涵養機能など森林の機能が低下している荒廃林を整備している点はねらいが非常に明確で分かりやすい。 | 5 |
| 増田 | 相模川上流域である山梨県の森林整備・保全をすることにより土壌流出が防げる効果がある。従って神奈川県の水源地環境の保全にも繋がり、流域として取り組む事業として必要である。 | 4 |
| 森本 | 荒廃森林の整備に20年間かけることは、高優先度とすべきもの。 ねらいは明確と言える。 | 5 |

実施方法は適切か

| 委員 | 評価・疑問提起・改善示唆 | 評価点 |
|----|---|-----|
| 北村 | 山梨県の森林施業考えに基づく実施方法であり、適切と考えます。 | 4 |
| 倉橋 | 【森林整備】 切捨て間伐、作業道の整備方法の効果が納得しました。 | 4 |
| | 【生活排水】 専門知識がないので、妥当かどうかは計りかねるがリン除去が薬品投入のさじ加減で、簡単?に増減できることに感心しました。 | 3 |
| 坂井 | ① 公助の第一義を『自助の促進』と定義すれば、県が森林整備をリードし停滞した林業の刺激とする試みへの支援は重要。 ② 下水処理施設に直接設置するのは効果的な方法である。 | 5 |

平成26年度第3回事業モニター評価一覧

参考資料

| 委員 | 評価・疑問提起・改善示唆 | 評価点 |
|----|---|-----|
| 佐藤 | <p>【森林整備にかかわる共同事業】 間伐率30%一回間伐での長期間の整備効果をねらい、さらに、切り捨て間伐による経費節減、間伐材を材売りに出すことによるコスト回収を図ることにより、森林組合（森林持ち主）に間伐整備の必要性への関心とインセンティブを持たせるやり方は適切であると思います。</p> <p>【排水からのリン削減のためのPAC処理設備】 年初に運転を開始して、10月にはリン濃度0.2mg/lを達成しており、設備としては適正であったと判断します。 現在、活性汚泥の循環に対して、最適かつ安定的なPAC注入濃度を調整中でした。</p> | 4 |
| | <p>相模川上流域における間伐を主体とした森林整備や、排水処理は、水源環境を考える上で大事なことと思います。隣接県と共同事業として実施することは適切。</p> | 3 |
| 中門 | <p>間伐がされて下層植生の回復も進んでいるが、材の捨て切りが多くみられる。森林組合の活性化を目指すのであれば生産材活用を促進すべきである。土壌保全・シカ対策が捨て切りの他は特に見られなかった。</p> | 3 |
| 西 | <p>実施方法は適切だと思いました</p> | 4 |
| 前田 | <p>荒廃林では木材としての価値が低い木が多く、わざわざ作業道を入れてまで搬出するほどの価値があるかどうか疑問は残る。特に荒廃してから最初の間伐では質の悪い木を多く伐らなくてはならないので…。しかし、間伐材を有効利用するという姿勢は評価できる。また、作業道は一度作れば将来も利用することが可能である。</p> | 4 |
| 増田 | <p>作業道を整備することにより、森林整備の作業効率が上がると考えられ、有効な事業と判断する。</p> | 4 |
| 森本 | <p>間伐率も30%を想定しており、説得性も充分あった。 森林作業道にも配慮が見られ、今後の保育間伐面でも有効。 シカ対策にも創意・工夫がみられ、柔軟に対応出来ている。</p> | 4 |

効果は上がったか

| 委員 | 評価・疑問提起・改善示唆 | 評価点 |
|----|---|---------|
| 北村 | <p>1回限りの整備のため、継続した取り組みが必要と思われます。</p> | 3 |
| 倉橋 | <p>【森林整備】 実施して間もないので、下草の様子など効果は確認できないが、森林内部は明るいので、数年後には効果が見られる。</p> <p>【生活排水】 リン除去の数字は確認できるが、アオコの影響までには時間が必要である。</p> | 3 なし |
| | <p>① 一度の間伐によって森林が明るくなり、車両が入れる作業道が付けば、地域の林業への意欲も高まることが期待できる。 ② 桂川流域下水道は接続率が28.9%。清流センターの開所以来10年で県内平均63.6%の半分弱なら、効果は出ている。</p> | 4 |
| 佐藤 | <p>【森林整備にかかわる共同事業】 森林整備の進捗が遅れています。</p> <p>【排水からのリン削減のためのPAC処理設備】 設備設置、継続運転による効果は上がっていると思います。</p> | 2 4 |
| | <p>森林整備は、案内頂いた所は、今後の森林整備の継続にも繋がっているとのこと。混交林化を予定している場所がどうなのかも気になった。排水処理は安定するのにももう少し時間がかかるとのこと。</p> | 3 |
| 中門 | <p>山梨県の森林整備は環境と景観を目的とした人工林の間伐が主体で森林整備は一巡で終了。水源環境としての継続した森林整備ができるか課題が残る。 生活排水PAC処理は今後の効果検証が必要である。</p> | 3 |
| 西 | <p>こちらの話も聞いていただけだったので今後少しずつでも効果は上がると思う</p> | 4 |

平成26年度第3回事業モニター評価一覧

参考資料

| 委員 | 評価・疑問提起・改善示唆 | 評価点 |
|----|--|-----|
| 前田 | 間伐する前はどうか分らないが、現地を視察した際に林内の山肌から水が染み出してそれが水流となっているのが確認できた。また、低灌木が林床に見られ林内の光環境も改善されていると感じた。この森林は水源としての役割を十分果たしていると感じた。 | 5 |
| 増田 | 今年3月の雪の被害により、目標としていた整備が遅れたため、まだ数値で表せる効果が上がっていない。 | 3 |
| 森本 | 協定締結から3年経過、それなりの効果も出つつある。これからの期待値も込めて、4点を差し上げたい。 | 4 |

税金は有効に使われたか

| 委員 | 評価・疑問提起・改善示唆 | 評価点 |
|----|--|-----|
| 北村 | 継続して調査する必要があると思われます。 | 2 |
| 倉橋 | 有効とまでは言えないが、見守る状況である。 | 3 |
| 坂井 | ① 山梨県が少ない予算で広い森林を活性化しようとするれば、多様な知恵が必要で、神奈川県と共に学べば税金は有効である。 ② 元々リンが増えやすい川に、リンを除去する装置を設置させてもらうことで、内陸にあり全域が水源地域でありながら少ない人口で支えてくれている山梨県の責任への理解も深めたい。 | 5 |
| 佐藤 | 【森林整備にかかわる共同事業】 資料2によると間伐整備事業の単価は約26万円/haとなっていますが、これは適正あるいは有効に使われた単価と言えるのか判断できません。ただし、間伐要領として捨て切りを採用し、さらに間伐材を売りに出すなど、経費削減の努力は感じられました。 【排水からのリン削減のためのPAC処理設備】 富栄養化による下流での上水浄化対策との効果を想像と、上流における生活排水からのリン除去は有効であると考えます。 費用対効果の検討はどうなっているのですか？ | - |
| 滝澤 | 下流域にいる者としては、水源環境を保全・再生するために協力することは必要。 | 3 |
| 中門 | 森林整備、生活排水対策共に計画通りに事業が進んでいるので、共同事業としての税投入は有効と判断する。 | 5 |
| 西 | 現時点では有効だと考えられるが、今後他の方策を取り入れることも期待したい。 | 4 |
| 前田 | 状況に応じて間伐後の集積をやらないなど経費を抑えた施工を実施している点で限られた財源を有効に使うとしている姿勢が窺える。 | 4 |
| 増田 | 山梨県の取り組みとしての事業は進められているので、有効に使われているのではないかと判断する。 | 4 |
| 森本 | 山梨県の森林環境税と本県の共同事業であり、特に問題はない。むしろ 多めに投入し、成果を出していきたい。 | 5 |

2 個別項目

| 委員 | 評価・疑問提起・改善示唆 | 評価点 |
|----|--|--------|
| 北村 | <p>【上流対応】 神奈川県と山梨県で共同事業を実施したことについては、評価できます。 上流域の山梨県民に対して、共同事業として行っていることをもっと周知することが必要であると考えます。 共同事業の効果をわかりやすく周知するうえでは、事業地として、桂川流域に近い場所の施業も実施するとよいと思います。</p> | 3 |
| 倉橋 | <p>【上流部対策】 相模川上流部（桂川）の人口17万人が、神奈川県民600万人の飲み水を支えてくれていることを、神奈川県民は知ることが必要で、それに対して我々は、上流部に何ができるのか、何をしたら喜んでもらえ、また、下流部にきれいな水を流してくれる意識を持ってもらえるのかを住民の目線で捉えることが、必要です。 森林整備をしても木が売れなければ、それ以上山主は自力で木の手入れはしません。木を売ったとしても他県のブランド材として、安く買いたたかれる状況です。神奈川とて同じ状況ではありますが、神奈川県では年間2万戸が新築されていると聞きます。ほとんどが外材（輸入材）ですが、その内の一割、もしくは二割でも上流部の木を使ってもらえれば、森にお金を入れることができ、自力で整備されていきます。森にお金が入ることは林業を中心とした産業が活性化され、雇用が生まれ、人々の生活も安定し、過疎化しつつある上流部がいきいきとした、魅力的なまちになります。ゆとりは経済面だけでなく、精神面でも外を見る目ができます。上流の人たちが下流の人のことを思いやる気持ちが、水をきれいに流す目を養ってくれます。 水源環境税を循環する森づくりの仕組みに投入することが、森林整備や生活排水対策につながる近道であり、効果が高いと考えます。 また、上下流の交流も必要です。お互いに環境の違いを肌で感じたり、気持ちを伝えあうことで、理解できることが沢山あります。県民フォーラムを活用して、交流の場が作れると思います。</p> | |
| 坂井 | <p>① 山梨県の手法から学ぶべき手法、神奈川県が山梨県に提供できる手法。 作業道幅を2.5mと定めることで、乱伐防止になるだけでなく、出口と搬出を意識することにも通じる。切り捨て材のあり方も、無駄な経費を使わない点で有効。神奈川県の鹿と森林を一体管理する神奈川県の手法は山梨県に提供してもよい。両県が互いに学ぶ好機である。 ② 桂川清流センターには、設置以来10年で28.9%が接続してくれている。 短期的に結果を求めるような種類の事業ではない。むしろ無理な推進によって地域との関係が冷えるようなことのないように、これからも地道に普及を進めていただきたい。あと10年くらいで、他の処理場と同等の接続率となって行けばよい。</p> | 5 4 |
| 佐藤 | - | - |
| 滝澤 | <p>【シカ】 案内頂いた場所は、シカの食害はそれほど出ていないと思われました。しかし山梨県内も丹沢のように各所でシカの食害が問題になっています。木の幹や植栽木にも防除を施すなどの処置をしていますが、林床は無防備です。シカとうまく共存していくためにも、今後シカの頭数などの動向をモニタリングして行く必要があると感じました。</p> | 3 |
| 中門 | <p>【水質処理】 桂川流域の下水道普及率は合計28.9%（H26/3）と低い状況にある。共同事業としての桂川清流センターPAC処理だけでは相模湖に流入する生活排水の水質処理は十分とは言えない。地域環境を踏まえた生活排水対策として市町村設置型合併浄化槽の普及促進など生活排水クリーン処理率を判断基準として普及率向上につながる対策支援を検討する必要があると考える。</p> | 4 |
| 西 | 桂川清流センターにおける、リン削減の排水処理設備などは評価できると感じました | 4 |

| 委員 | 評価・疑問提起・改善示唆 | 評価点 |
|----|---|-------------|
| 前田 | <p>【上流対応】 桂川流域では山梨県内の他の地域と比べて下水道の普及が進まない理由が理解できた。下水道を普及させるための税金ではなく水源環境を改善するための税金であるので下水道が難しければ合併浄化槽でも十分だと思う。 下水の処理にPACというアルミの化合物が使われているので汚泥中にかなりのアルミが含まれていると思う。一般に汚泥には重金属類も含まれるのでアルミも含めた金属対策が必要になると思われるが…。</p> | 4 |
| 増田 | <p>【生活排水処理】 水源環境の保全のためには上流域対策はかかせない。相模川流域の環境基準は、資料によると達成されているようだが、下水道普及率は低く、浄化槽設置においては補助があっても市町村で温度差があり、個人負担も大きい。県としてどのように取り組むか新たな方策が必要ではないか。</p> | 3 |
| 森本 | <p>【上流対応】 ダム集水域の大半は山梨県内にある以上、当然のこと。 あまり、行政区を意識しないで、流域で考えるべきだろう。</p> <p>【水質処理】 H26/4月からの稼働であり、もう少し安定化を待ちたい。 桂川清流センターの真摯な取り組みに、好感が持てた。</p> <p>【アオコ対策】 上記の安定稼働により、成果が出るものと思料。 これ以外にも、方策があるかもしれない、総合的に捉えたい。</p> | 5 4 3 |

3 総合評価

| 委員 | 内容 | 評価点 |
|----|--|---|
| 北村 | <p>山梨県の森林整備の第一は、荒廃した人工林の整備が目的となっていることを神奈川県民に対しても、さらに周知することが必要です。</p> <p>神奈川県の水源環境を守るうえでも山梨側への協力が欠かせないこと、そのために、水源環境保全税を投入することに意義があること。</p> <p>この点について、今後も粘り強く様々な広報手段を通じてPRしていくことが大事です。</p> <p>森林整備の共同事業場所としては、桂川流域に近いところをモデル地として選定し、継続して整備を行うことも効果が高いと思います。</p> | 3 |
| 倉橋 | <p>上流部対策は始まったばかりで、目に見える効果は見当たりませんが、神奈川とは違う点で、作業道の作り方、特に水の逃がし方など、参考になるのでは思いました。捨て間伐も見た目はあまりよろしくないのですが、土砂流失やシカの侵入防止になるなど、お金を欠けずに効果があがる方法に、納得し、効果を見たいと思いました。</p> <p>願わくば、整備した森林組合の方から説明やお話を聞けるとよかったですと思います。</p> <p>生活排水対策も桂川清流センターへの接続率が低いので、効果の程度はほとんど見られないと思います。接続しない原因を明らかにしてもらいたいです。</p> | 3 2 |
| 坂井 | <p>【① 神奈川県の制度を点検する機会も、山梨県からいただいた好機。】</p> <p>神奈川県の制度は、人口に物を言わせ、森林を所有者個人にお金まで渡して20年間森林を借り上げ、山梨県どころかこの県も真似ができない贅沢な方法。自助は育たず生産性の向上もなく、いくらお金があっても永遠に出口がない。</p> <p>神奈川県は入札方式で業者委託。どこの誰が施業するかわからないから、地域と森林の距離が広がり、地域と森林はばらばらに動いていく。業者は売り上げに結びつかない見積書の提出に追われ、経営体力を奪われている。山梨県では地元森林組合に一本化しているから、台帳整備が進み森林の将来像を描ける。</p> <p>山梨県は、森林所有者と森林組合の接点や地域の将来を語る機会を増やし、少しの利益も見逃さない知恵や公平に利益を享受する仕組みができることを狙っている。作業道幅2.5mと定めたことも地域自助力向上の指針としての的確。</p> <p>【山梨県は、神奈川県の先生である。】</p> <p>神奈川県には、自分達の欠点・弱点を学び、後から来た山梨県に優越感を抱くことなく、新しい時代に適応進化させてくれる先生として、謙虚に接して欲しい。</p> <p>【時代の変化と新しい流れをつかむことができるか。】</p> <p>林業の衰退は、限界集落を生んだ。かつての林業は、若者が都会に出て行ったことで衰退したが、この10年で若者が都会から地方を指向する傾向は一気に高まっている。地域での生活において副業としての林業収入が得られるかどうかは生命線であり、それはそのまま林業が地域再生の切り札であることを示す。</p> <p>【金がない者は知恵を出す、知恵がない者は汗をかく。地域はみんなで守る。】</p> <p>追い詰められてこそ本当の知恵は生まれる。自助が互助を拓くことを期待。</p> <p>【② 森林に経済活動を起こせば、生活排水対策はあとからついてくる。】</p> <p>若者が増え地域の経済が活性化すれば、住宅の改築などをきっかけとして生活排水対策は進展する。その意味でも森林環境税による森林整備が、林業再生の契機として、有効に機能することを願っている。</p> <p>【下流は、上流の地域再生を応援する責務を負っている。】</p> <p>どちらにしても下流の住民は、上流の皆さんが豊かに暮らしていただくさらないと清浄な水を受け取ることはできないことを、忘れてはならない。</p> | 3 両県が相互に刺激を与え合い、親しく切磋琢磨する関係に発展することに期待。 |

| 委員 | 内容 | 評価点 |
|----|---|-----|
| 佐藤 | <p>【（１）生活排水処理にかかわる山梨県の行政】 山梨県は、人口減少傾向がある上、生活場所が傾斜地に分散しているため、下水道ならびに生活排水処理設備を効率的、経済的に配置することが非常に困難であることを理解しました。</p> <p>【（２）共同森林整備事業について】 各年度の森林整備目標と実績（施業面積と事業費）のわかりやすい資料を作っていたきたいと思います。</p> <p>協定書にある5年間で1,280haという目標の達成度と累積事業費がわかるようにお願いします。</p> <p>【（３）PAC処理設備】 設備設置の基本計画において、費用対効果をみるために下流側での水質浄化にかかわる経費と比較を行ったと思いますが、計画通りの設備効果は実現したのでしょうか？</p> | — |
| 滝澤 | <p>現在の荒廃森林再生事業は、各所一巡のみとのこと。 今回案内頂いた所では今後も木材の搬出が循環していけそうな説明であったので、今後も整備が継続されると思われました。</p> <p>混交林化をしていく所は、手がかからない混交林になるまでには、一回の整備では足りないと思います。今はとりあえず一巡することが必須ですが、その後また整備が出来ない状況になってしまわないようなシステムが必要と思います。</p> <p>排水設備に関しては、今後の成果を期待しています。</p> | 3 |
| 中門 | <p>相模川水系県外上流域対策は、相模湖などのダム集水域の大半が山梨県内東部地域に広がり神奈川県民にとっても重要な課題であり、共同事業がスタートしたことは大きな成果として評価できる。</p> <p>第2期から共同事業として進めている森林整備、桂川清流センターの生活排水PAC処理は計画通りに進んでいると見えるが、初めての県境を越えた税投入であり、今後の継続したモニタリングによる評価が重要であると判断する。</p> <p>森林整備事業については荒廃した人工林の間伐による下層植生の回復もみられ、水源環境保全としての効果も現れ始めている。しかし、山梨県の森林環境税を活用した事業は間伐を一巡したところで終了するとのことである。神奈川県が目指す水源涵養機能としての森林整備と整合性がとれる働きかけも必要と考える。</p> <p>上流域の生活排水対策についても多くの課題があり、山梨県の関係した流域市町村との関わりも必要になるのではないかとと思われる。</p> | 4 |
| 西 | <p>森林整備、生活排水対策 共に熱心な取り組みが感じられました。</p> | 4 |
| 前田 | <p>山梨県で実施している森林環境税のことがよく分かった。森林整備に関しては県が直接発注するのではなく、森林組合が地主に働きかけて施業するという形をとっている。このようなやり方で経費が抑えられることが分かった。</p> <p>森林環境税と言う名前の通り森林に関するものに限られた使い方をしているようだが、その点神奈川では水源にまつわる色々な分野にお金を使え、幅広い取り組みができていると感じた。神奈川は県の人口が山梨の10倍以上もあるのだから評価できる施策にたくさん取り組んでいるとはいえまだまだ頑張れる余地があるのではないかと考えた。</p> <p>山梨県の職員の皆さんも日ごろの取り組みを熱心に説明していただき、また、自分たちの質問に真摯に答えてくださり、ありがたく思った。</p> | 5 |
| 増田 | <p>森林整備の現場で間伐された木が乱雑に置かれているのに驚いたが、このようにしておくとしかが入りづらいという山梨県側の説明があった。上野原ではシカの被害が少ないと言うが、そのような効果もあるのかと思った。</p> <p>間伐材に対して森林組合が窓口になって山林の所有者と交渉し、間伐を促進している。そして間伐率30%以上になると補助金を出しているそうだが、どの程度の効果が上がっているのか。</p> <p>今年1月にPAC処理施設の視察をしたときは、まだ稼動していなかった。今回、水質比較など見たわけではないが、リンが除去されているとその効果の説明があり、今後の経過を見守りたい。</p> | 3 |

| 委員 | 内容 | 評価点 |
|----|---|-----|
| 森本 | <p>山梨県との共同事業は、大変重要なもので、両県の信頼関係を大事にしたい。従って、短絡的な見方ではなく、長期かつ継続的な取り組みが肝要と思った。出来るものなら、神奈川県が先行投資するくらいの心意気を示したいもの。(両県の受益者数の格差も、歴然と存在していることは事実である。)(であれば、受益者数から割り返した数値での尺度も、あって良いのではないか。)(あくまでも私見であるが、両県を取り持つ団体が 委員の中にもおられる。)(=桂川・相模川流域協議会)</p> <p>上記の団体様から、次期に繋がる提案をぜひ、期待したいものだ。</p> | 5 |

4 実施実務のチェック (資料は理解できたか・現地の状況は理解できたか・説明は理解できたか)

| 委員 | 内容 | |
|----|---|--|
| 北村 | <ul style="list-style-type: none"> 資料は理解できたか (適) 現地の状況は理解できたか (適) 説明は理解できたか (適) | |
| 倉橋 | <ul style="list-style-type: none"> 資料は理解できたか (否) 現地の状況は理解できたか (適) 説明は理解できたか (適) | |
| 坂井 | <ul style="list-style-type: none"> 資料は理解できたか (適) 神奈川県との視点の違いは興味深い 現地の状況は理解できたか (適) 説明は理解できたか (適) <p>本題と関係ない私達の質問にも、理解を深めるよう配慮してご対応くださった。 ※ 前回1月に見に来たばかりなのに、親切にご対応いただき感謝している。</p> | |
| 佐藤 | <ul style="list-style-type: none"> 資料は理解できたか (適) 現地の状況は理解できたか (適) 説明は理解できたか (適) | |
| 滝澤 | <ul style="list-style-type: none"> 資料は理解できたか (適、否) <p>山梨県の森林環境税を活用した20年間で全域を整備する計画があるのに、なぜこの計画で、全域の数字の中に入っている相模川流域が20年間ですべてを整備しきれないのか(資料1・6ページ)が、理解できなかつたです。当日は気が付かず、質問出来ませんでした。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現地の状況は理解できたか (適) 説明は理解できたか (適) | |
| 中門 | <ul style="list-style-type: none"> 資料は理解できたか (適) 現地の状況は理解できたか (適) 説明は理解できたか (適) | |
| 西 | <ul style="list-style-type: none"> 資料は理解できたか (適) 現地の状況は理解できたか (適) 説明は理解できたか (適) | |
| 前田 | — | |
| 増田 | <ul style="list-style-type: none"> 資料は理解できたか (適) 現地の状況は理解できたか (適) 説明は理解できたか (適) | |
| 森本 | <ul style="list-style-type: none"> 資料は理解できたか (適) 現地の状況は理解できたか (適) 説明は理解できたか (適) | |